

チーム医療で、「痛み」を適切にコントロール。 安心と回復を支える「麻酔科」は縁の下の力持ち。



麻酔科 主任医長
西田 静香

「麻酔科の仕事と聞くと、『手術中に眠らせる…』というイメージを持たれる方が多いかもしれません。しかし、私たちの役割は、それだけではありません。ひとりで言うと、麻酔科の仕事は『患者さんが手術を安全に乗り切れるようにすること』です。そのため手術前、手術中、そして手術後まで、すべての状況において患者さんの全身状態を一貫して管理し、安全と回復を支えることに努めています」と話すのは麻酔科の西田静香医師。

具体的には手術前は、合併症を含め患者の全身状態をチェック。病歴やアレルギー、服用中の薬などを確認し、麻酔・手術のリスクを総合的に判断しながら最

適な麻酔方法を選択する。手術中は、心拍数や血圧、呼吸、酸素飽和度などを逐次モニター、全身のバランスを保ちつつ、外科医師が手術に集中できる環境を整えている。そして手術後は、痛みや呼吸状態、意識の回復を見守りながら、次の治療や日常生活復帰への橋渡しを支援。その役割はまさに「手術医療の司令塔、もうひとりの主治医」ともいえる。

期待される「術後疼痛管理チーム」。
チーム医療で患者をサポート。

「現在、私たちが特に力を入れているのが、術後の疼痛コントロールです。痛みは単なる不快感ではありません。強い痛みが続

くと、呼吸が浅くなり肺炎を起こしやすくなったり、動けない、食べられない、眠れないなどの影響で回復が遅れることもあります。適切に痛みをコントロールすることで、患者さんは早く体を動かせるようになり、食事やリハビリもスムーズに進み、その結果、合併症の予防、入院期間の短縮、そして退院後のQOL（生活の質）向上が期待できます。痛みを抑えることは、『薬にする』だけでなく、『よりよい回復』を促すことにつながっています」と西田医師は説明する。こうした状況を踏まえ、岡山旭東病院では二〇二三年四月から「術後疼痛管理チーム」が活動を開始。麻酔科医師、看護師、薬剤師、理学療法士など、多職種のチームがカンファレンスや回診を行ない「痛み管理」に取り組んでいる。

手術麻酔から集中治療、疼痛管理まで、一貫して対応する麻酔科。医療の価値が「治す」だけでなく、「その人らしい生活を守る」方向へと広がるなか、麻酔科が中心となつて取り組む「痛みの管理」は現在、重要なテーマとなっている。「縁の下の力持ち」といわれる麻酔科ですが、これからもチームで安心を支えたい」と話す西田医師。今後の更なる活動が期待されている。

お問合せ 岡山旭東病院
086・276・3231

NEWS

SNSで病院の様子を発信 採用向けInstagram

若い世代に病院の魅力を伝えるため、採用向けの公式Instagramを開発しています。職場の雰囲気やスタッフの素顔、日々の取り組みなど、ホームページだけでは伝えきれない「現場のリアル」を各職種から発信しています。求職者だけでなく地域の皆さんにも、普段は見ることのできない院内の様子や働く姿をのぞいていただき、病院をより身近に感じていただけたら嬉しいです。

ぜひご覧ください！



岡山旭東病院
Instagram▶

イベントのご案内

当院では、健康教室や園芸教室、コンサート、展示会など、どなたでもご参加いただけるイベントを開催しています。ぜひお気軽にご参加ください。



岡山旭東病院
イベント情報▶



No.140

おとな、暮らし、ときどきプレミアム

2026

3-4月号

850円

(本体773円)

オセラ

旨い魚。

岡山で味わう、

大人のゴルフの
愉しみ方。

いざという時に
知っておきたい

医療ガイド

住まいと暮らしの

スタンダード

未来に残したい、

私たちのプロジェクト。

大人のためのご馳走。

とっておきを探しに。

Doctor's Eye